

2021年9月17日

SOMPOホールディングス株式会社
損害保険ジャパン株式会社
SOMPOひまわり生命保険株式会社
SOMPOケア株式会社

「認知症に関する意識調査」を実施

～世界アルツハイマーデーに身近な人と認知症について対話するきっかけに～

SOMPOホールディングス株式会社（グループCEO執行役社長：櫻田 謙悟）は、9月21日の世界アルツハイマーデーおよび9月の世界アルツハイマー月間に合わせ、「認知症に関する意識調査」を実施しました。その調査結果を公表します。

1. 意識調査実施の背景

SOMPOグループは、「認知症に備える・なってもその人らしく生きられる社会を」をスローガンとして掲げ、「SOMPO認知症サポートプログラム」※1を展開しています。

また、SOMPOグループは9月21日の世界アルツハイマーデーおよび9月の世界アルツハイマー月間にあわせ、『“Talk with”話そう。認知症のこと。』※2をコンセプトに認知症の社会啓発を促すイベントや取組みを実施しています。

そこで、9月21日の世界アルツハイマーデーを迎えるにあたり、身近な人と認知症について対話するきっかけにさせていただくことを目的に意識調査を実施しました。

※1 「SOMPO認知症サポートプログラム」

https://www.sompo-hd.com/~media/hd/files/news/2018/20180719_1.pdf

※2 世界アルツハイマーデー（9月21日）に向けた取組み ～『“Talk with”話そう。認知症のこと。』～

https://www.sompo-hd.com/-/media/hd/files/news/2021/20210831_1.pdf

2. 意識調査結果のポイント

- (1) 認知症を予防するための対策として最も多くの方が「人と多く話をする」（67.4%）と回答しましたが、実践している人は3割弱（27.7%）にとどまり、認識はしていても実践は出来ていない方が多いことがうかがえます。（質問2）
- (2) ご自身やご家族が認知症になることに不安をいだいている方がいずれも6割と多い一方で、認知症について身近な人と話をした方は「配偶者と話をした」（33.1%）、「親と話をした」（18.9%）、「自分の子供と話をした」（12.6%）と少なく、不安ではあるが健康な時に身近な人と話をしている方は少ないということがわかりました。（質問4・質問5）
- (3) 「もし、認知症になったら周りの人には知られたくない」と答えた方は1割以下にとどまり、認知症は誰もがなりうるものであり、多くの人にとって身近な存在になりつつあることがうかがえました。（質問4）

(4) 認知症に関して、身近な方と「話したことがある」「機会があれば話したい」と思っている方は9割にのぼることがわかりました。(質問5)

(5) 性別に見てみると女性は男性に比べて認知症への理解度、関心、認知症予防への意識などが総じて高く、その理由として、自身が認知症になることで周りの人に迷惑をかけたくないと考える傾向が女性の方が男性よりも強いことが考えられます。(質問1、質問2、質問3、質問4)

3. 意識調査概要

調査期間 : 2021年8月13日(金) ~ 8月16日(月)

調査方法 : インターネット(PC、携帯電話モバイルサイト)

調査対象地域 : 全国

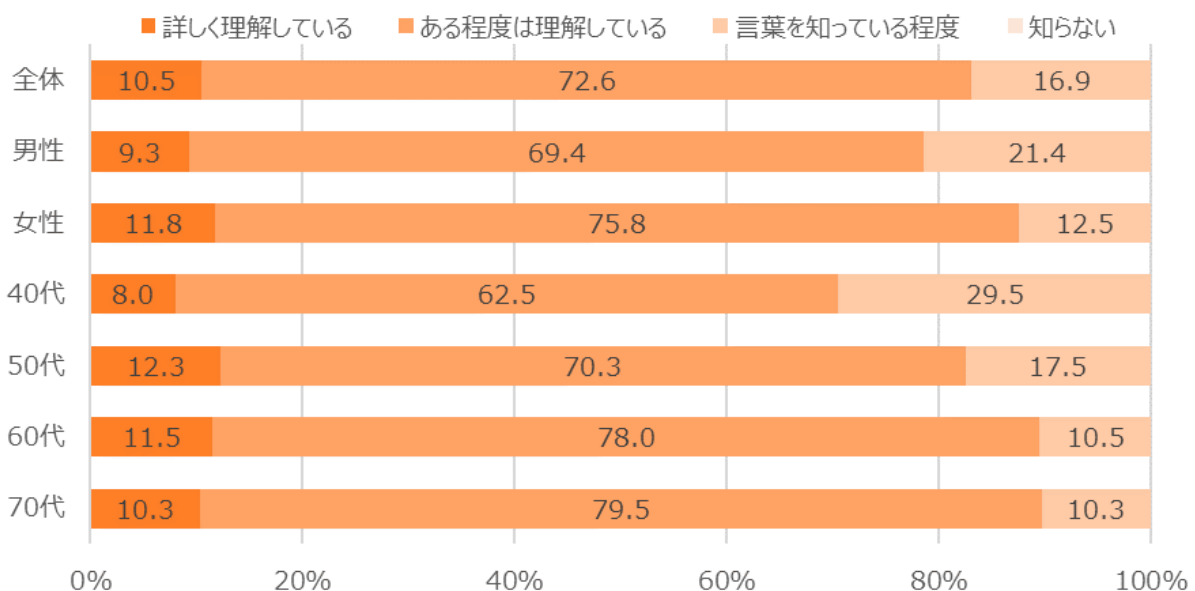
調査対象者 : 40代~70代の男女

回答者数 : 1,600名(男性:800名、女性:800名)

4. 意識調査結果

質問1. あなたは「認知症」に関してどの程度理解していますか？(回答者数:1,600人)

- 「詳しく理解している」(10.5%)、「ある程度は理解している」(72.6%)を合わせた『理解している』と回答した方は8割を超える一方で、「詳しく理解している」と回答した方は約1割にとどまりました。
- 性別で見ると、「詳しく理解している」、「ある程度は理解している」ともに男性より女性の方が割合が高くなっています。
- 年代別で見ると、『理解している』と回答した方は年代が上がるにつれて割合が高くなっています。



質問2. 認知症を予防するためにどのような対策・方法が有効かご存知ですか？

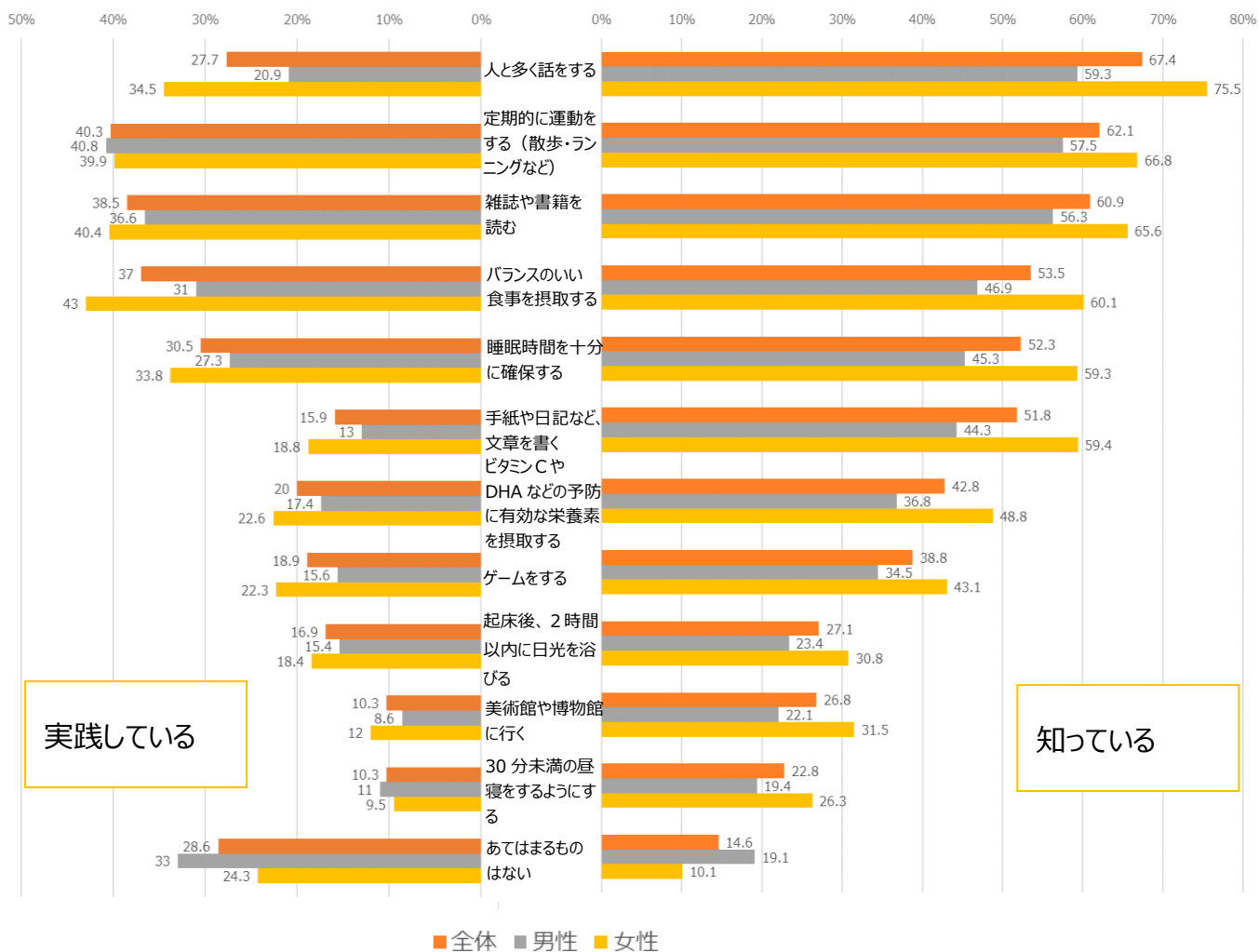
また、実践していることは何かありますか？(複数回答可、回答者数:1,600人)

- 有効な予防策・方法として認識していても、すべての項目において「実践している」

が下回っています。

- 最も多くの方が回答した「人と多く話をする」（67.4%）についても、実践している人は3割弱（27.7%）にとどまり、認識はしていても実践は出来ていない方が多いことがうかがえます。
- 性別で見ると、知っている、実践しているともにほとんどの項目で女性の方が割合が高くなっており、男性より女性の方が認知症予防に対する意識が高いことがわかりました。

認知症予防の対策・方法

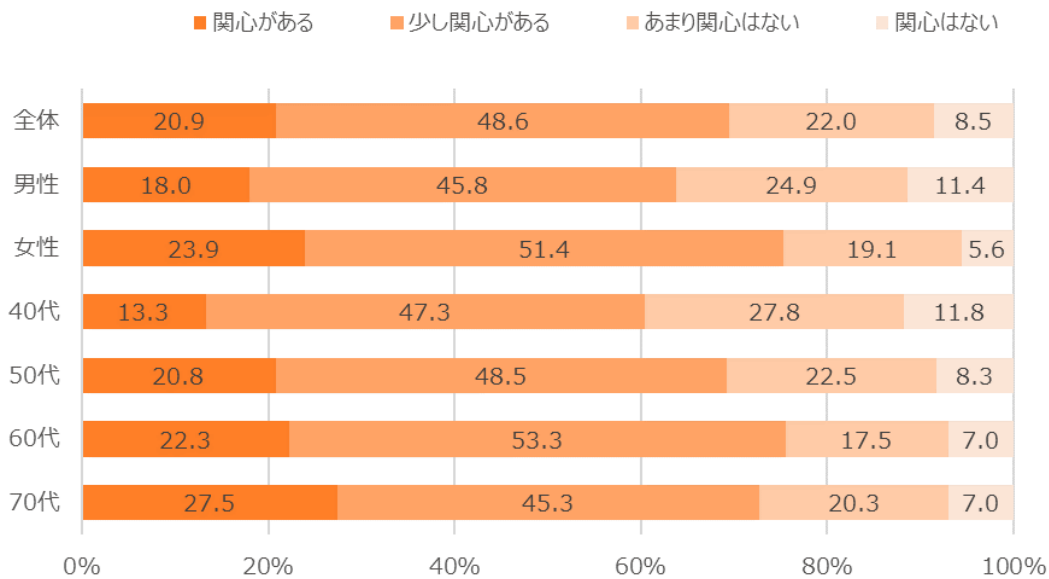


実践している

知っている

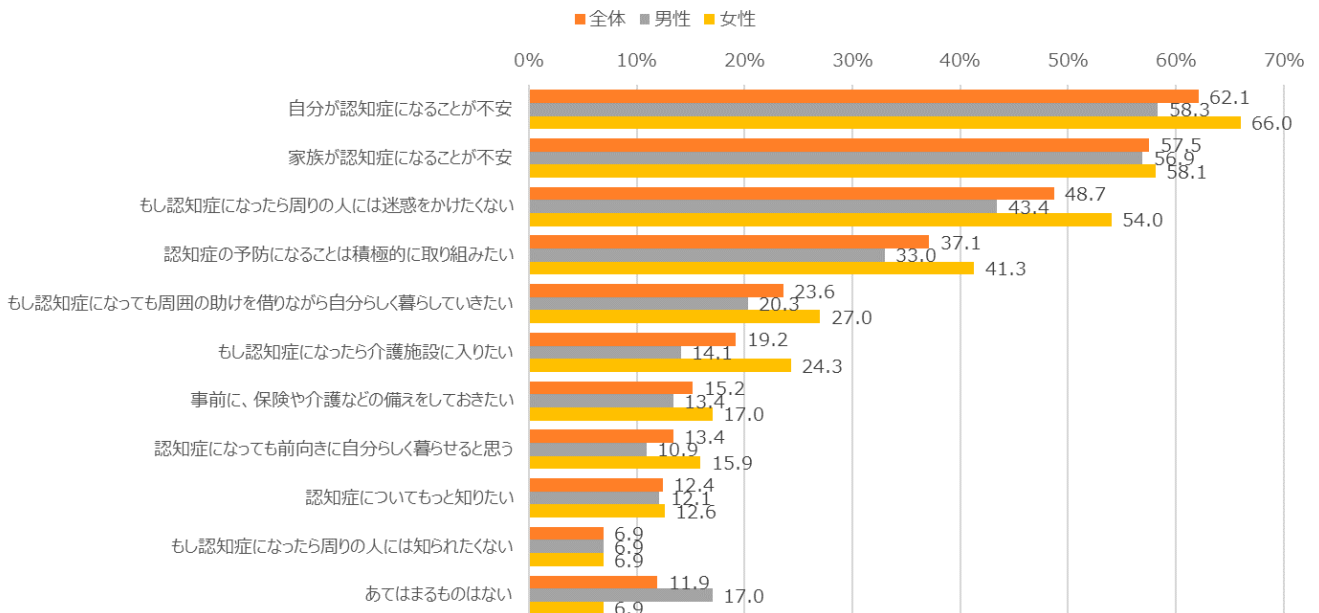
質問3. 認知症に関して、どの程度関心を持っていますか？（回答者数：1,600人）

- 「関心がある」（20.9%）、「少し関心がある」（48.6%）を合わせると約7割の方が、程度には差があるものの認知症に関して関心をもっていることがわかりました。
- 年代別で見ると、「関心がある」と回答した方は年代が上がるにつれて割合が高くなっており、年齢があがるにつれて関心が高まる傾向がうかがえます。
- 性別で見ると、「関心がある」、「少し関心がある」ともに男性より女性の方が、割合が高くなっています。



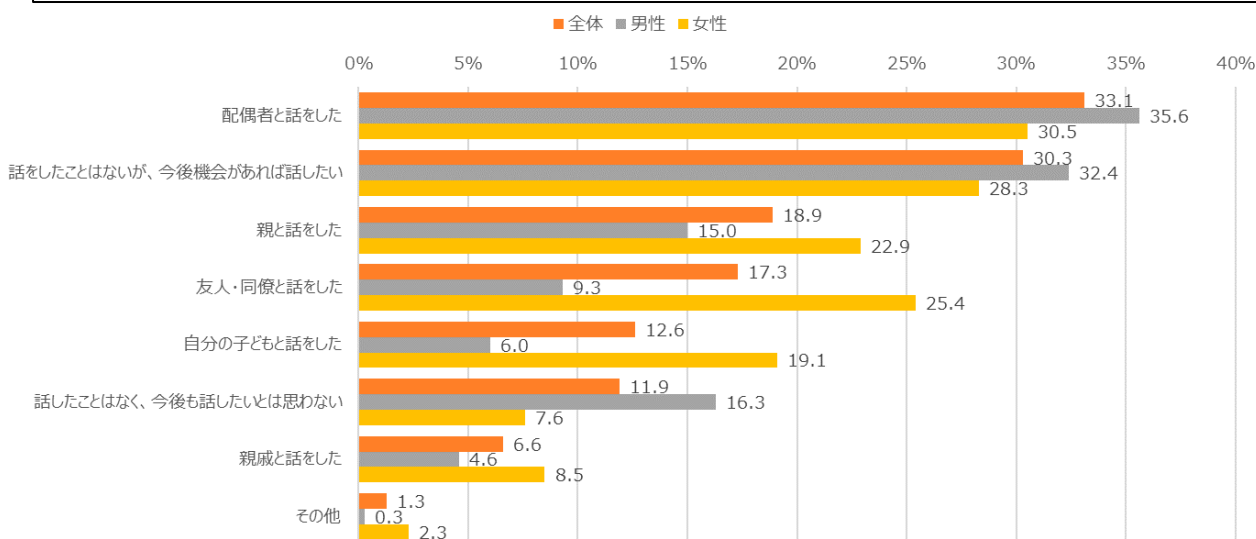
質問4. 認知症に対して思うこととして、あてはまるものを教えてください。（複数回答可、回答者数：1,600人）

- 「自分が認知症になることが不安」（62.1%）、「家族が認知症になることが不安」（57.5%）がともに約6割と、ご自身やご家族が認知症になることに不安をいただいている方が多いことがわかりました。
- 一方で、「もし、認知症になったら周りの人には知られたくない」と答えた方は1割以下（6.9%）にとどまり、認知症は誰もがなりうるものであり、多くの方にとって身近な存在になりつつあることがうかがえました。
- 性別で見ると、「自分が認知症になることが不安」、「もし認知症になったら周りの人に迷惑をかけたくない」、「認知症の予防になることは積極的に取り組みたい」、「もし認知症になったら介護施設に入りたい」の項目においていずれも約10%女性の方が男性よりも割合が高くなっており、認知症になることで迷惑をかけたくない、そのために予防に組みたいと考える女性が多いことがうかがえます。



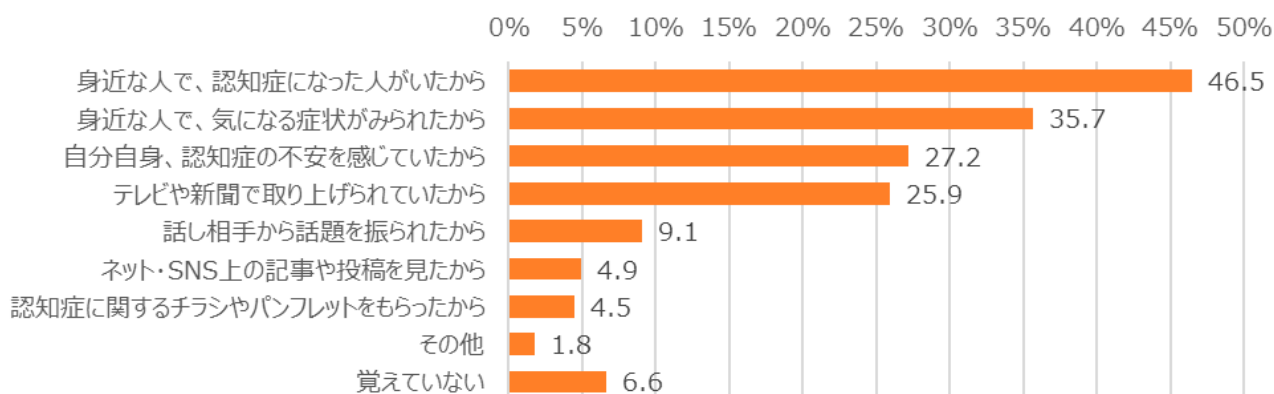
質問5. 認知症に関して、身近な人と話をしたことがありますか？「話をしたことがある」方は、話をされた相手の方についてもあわせて教えてください。（回答者数：1,600人）

- 相手を問わず「話したことがある」または「機会があれば話したい」と思っている方は9割にのぼることがわかりました。
- 話をした相手については最も多くの方が回答した「配偶者と話をした」でも約3割（33.1%）、続く「親と話をした」は2割弱（18.9%）にとどまり、家族などの身近な人と話をしていない方が多い現状がうかがえました。
- 性別に見てみると、男性は「配偶者と話をした」割合が最も高い一方、「親と話をした」「友人・同僚と話をした」「自分の子どもと話をした」は女性に比べて著しく低くなっており、また、3割強の方が「話をしたことはないが、今後機会があれば話したい」と回答しており、話をしたいと思っているものの、配偶者以外とは話ができない男性が多いことがわかりました。



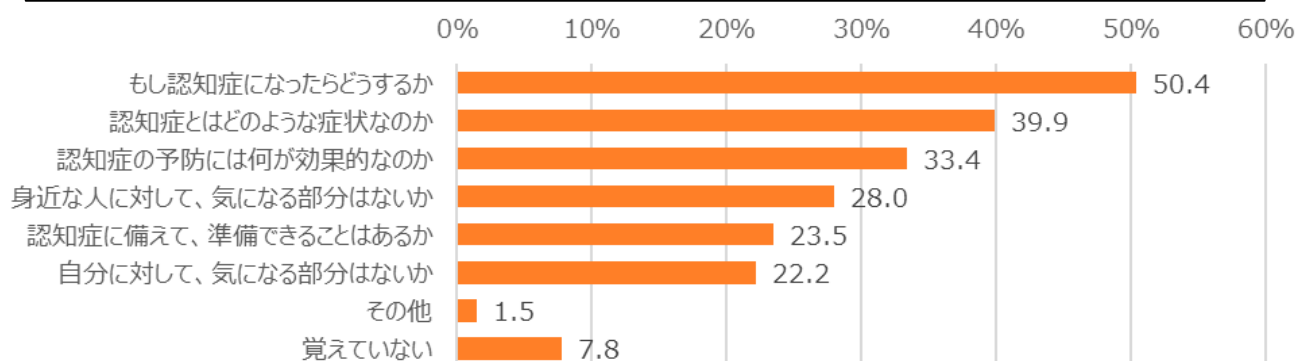
質問6. 質問5で身近な人と認知症の話をしたことがある、と回答した方にお伺いします。どのようなきっかけで、身近な人と認知症について話をしましたか？（回答者数：924人）

- 「身近な人で、認知症になった人がいたから」（46.5%）が最も多く、「身近な人で、気になる症状がみられたから」（35.7%）が次に続く結果となり、身近な方の変化が対話のきっかけになることが多いことがわかりました。
- また、「自分自身、認知症の不安を感じていたから」（27.2%）と、ご自身の不安をきっかけに対話したと回答した方も約3割にのぼりました。



質問7. 質問5で身近な人と認知症の話をしたことがある、と回答した方にお伺いします。認知症について、身近な人とどのような内容を話しましたか？（回答者数：924人）

■ 「もし認知症になったらどうするか」（50.4%）が最も多く、次いで「認知症とはどのような症状なのか」（39.9%）、「認知症の予防には何が効果的なのか」（33.4%）と続きました。認知症への対処、症状および予防などに関心を持っている方が多いことがうかがえます。



5. 識者コメント

SOMPO未来研究所株式会社

社会保障・ヘルスケアグループ 主任研究員 岡島 正泰

認知症がますます身近になっています。2025年にかけて団塊の世代が75才以上の後期高齢者となり、認知機能の衰えを感じる高齢者やそのような親を持つ子世代は確実に増えていきます。

認知症と付き合っていくために、周囲からの援助を上手に活用したり、そのための準備を事前に行っておく必要があります。例えば、暮らし方の希望を家族に伝えておく、銀行口座等の管理や見守りなどの方法を相談しておく、認知機能チェックを受けたり認知症外来を活用しながら適切なタイミングで公的介護保険を活用するなど、身近な人と認知症の話をしなが準備することが重要です。

本調査結果では、「認知症を理解している」方が8割超、「認知症となったら周りの人に知られたくない」方が1割以下と、身近な人と認知症の話をする環境が整ってきていることが示されています。一方で、「機会があれば話したい」「話したことはなく、今後も話したいと思わない」と未だ話をできていない方が4割以上を占める実態も明らかになっています。

そんななかで、本調査と同時にSOMPOがグループ横断で実施している『“Talk with”

話そう。認知症のこと。』をコンセプトとした認知症の社会啓発を促す取り組みは、身近な人と認知症の話をする方を増やすきっかけとなる可能性があります。

このように、行政や福祉だけではなく民間企業などの様々な主体が認知症に関する情報を発信し、認知症に優しい社会を皆で形成していくことが期待されます。

6. 今後について

SOMPOグループは、『“Talk with” 話そう。認知症のこと。』のコンセプトのもと、個人のお客さま、法人のお客さま、認知症当事者の方とそのご家族、自治体の方、グループ役職員とその家族など、さまざまなステークホルダーの皆さまとの対話を通じて「認知症に備える・なってもその人らしく生きられる社会」の実現に向け、取り組みます。

以 上